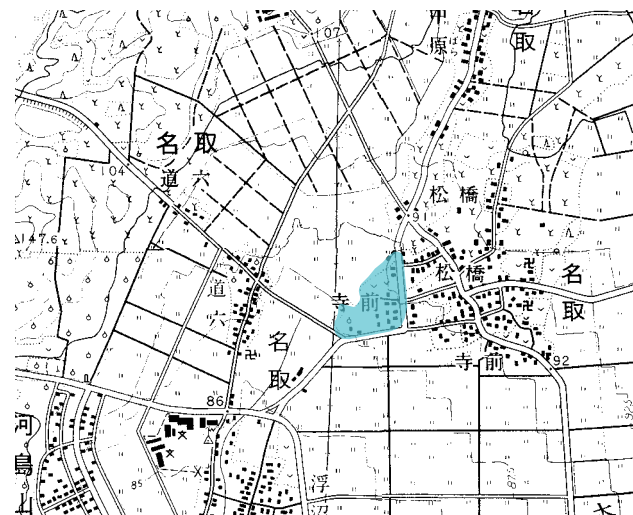


松橋遺跡発掘調査説明会資料

財団法人山形県埋蔵文化財センター 2010年9月26日

調査要項

遺跡名	松橋遺跡(まつはしいせき)
所在地	山形県村山市大字名取字松橋
遺跡番号	平成11年度登録
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	東北中央自動車道(東根~尾花沢)
現地調査	平成22年5月17日~平成22年9月22日
調査面積	4,200平方メートル
遺跡種別	集落跡
時代	平安時代・中世
遺構	掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡・土坑・柱穴
遺物	土師器・須恵器・縄文土器・陶磁器
調査担当者	調査課長 阿部明彦 課長補佐 伊藤邦弘 専門調査研究員 氏家信行(調査主任) 主任調査研究員 高橋 敏 調査員 千田一志 調査員 佐藤智幸
調査指導	山形県教育庁文化財保護推進課
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事 事務所・村山市教育委員会・山形県教育庁 村山教育事務所



遺跡位置図(1/25,000)



遺構の断面図作成(北から)

た遺構を丁寧に移植コテで掘り下げていき、出土した土器とともに写真撮影を行い、断面図や平面図などの記録をしながら進めました。

2 見つかった遺構と遺物

今回の調査では、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑などが見つかりました。

建物跡は4棟確認されました。2間×4間の規模で北と南に庇(ひさし)をもつもの。2間×4間の規模で西側に庇をもつもの。この2棟は、その配置から同時期の建物の可能性があります。その他、倉庫と思われる2間×3間の総柱の建物跡、溝に囲まれた建物跡。そして、塀と考えられる柱列跡も見つっています。

井戸跡は、11基確認されています。全て素掘

りのもので、その形態の違いから平安時代のものと中世のものがあるとも考えられます。中には、ほぼ完形の土器が出土したものの、埋める際に石を投げ込んだ様相を示すものもみつっています。そして、井戸跡の覆土からは、火山灰が検出されました。これは、青森県と秋田県の県境にある915年に噴火した十和田火山の火山灰の可能性がります。調査終了後に、理化学分析を行い明らかにしていく予定です。

溝跡は南北と東西に10条ほど検出されました。調査区を南北に走る溝跡からは青磁片が出土したことから中世に構築されたと思われます。

土坑には、焼土と共に多くの土器片が出土したものがみつき、埋戻す際に破損した土器を焼土と共に廃棄したと考えられます。

遺物は、平安時代の土師器や須恵器が出土しており、その大半は土師器で須恵器は僅かです。

須恵器は窯で焼かれた灰色の土器で、甕や坏の破片が多く、壺の底を硯として転用したと思われるものもみつっています。

土師器は赤褐色の素焼きの土器です。坏や高台付坏、甕などが出土しました。坏の底部切り離し痕や器形などから10世紀前半の所産と思われます。その他、青磁の破片が1点出土しました。

3 まとめ

今回の調査によって、平安時代と中世にわたる掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝、などが検出されるとともに、土師器、須恵器、磁器などが出土し、加えて溝跡や井戸跡が多く見つかったことから、豊富な水を利用して人々が生活を営んでいた集落であったことがうかがえます。但し、今回の遺構の集中域を見ると集落の中心は東側にあると考えられます。

今後、北側で調査を行った田向遺跡や田向2遺跡との関連を検討し、この地域の当時の様相を明らかにしていきたいと思ひます。



作業風景(南西から)



調査区全景(北から)

1 調査の概要

遺跡は、村山市東部に位置し、村山市役所から北西500mの名取地区の松橋集落の畑地・果樹・宅地などの自然堤防に立地しています。南側を市道浮沼名取線が走ります。遺跡は、平成11年度に山形県教育委員会によって登録され、平成21年度に実施された試掘調査の結果、溝跡や柱穴などが検出され、土師器などの遺物が見つかったことから発掘調査が必要と判断されました。

今回の調査は、東北中央自動車道(東根~尾花沢)建設工事に伴い、事業実施範囲の宅地部分を除く約4,200㎡について調査を行いました。

調査は、5月17日から開始し、はじめに重機械を使用して表土を掘削した後、遺構を検出するため手作業で土をけずりました。その後、見つかった



火山灰が堆積している埋土の状況（東から）



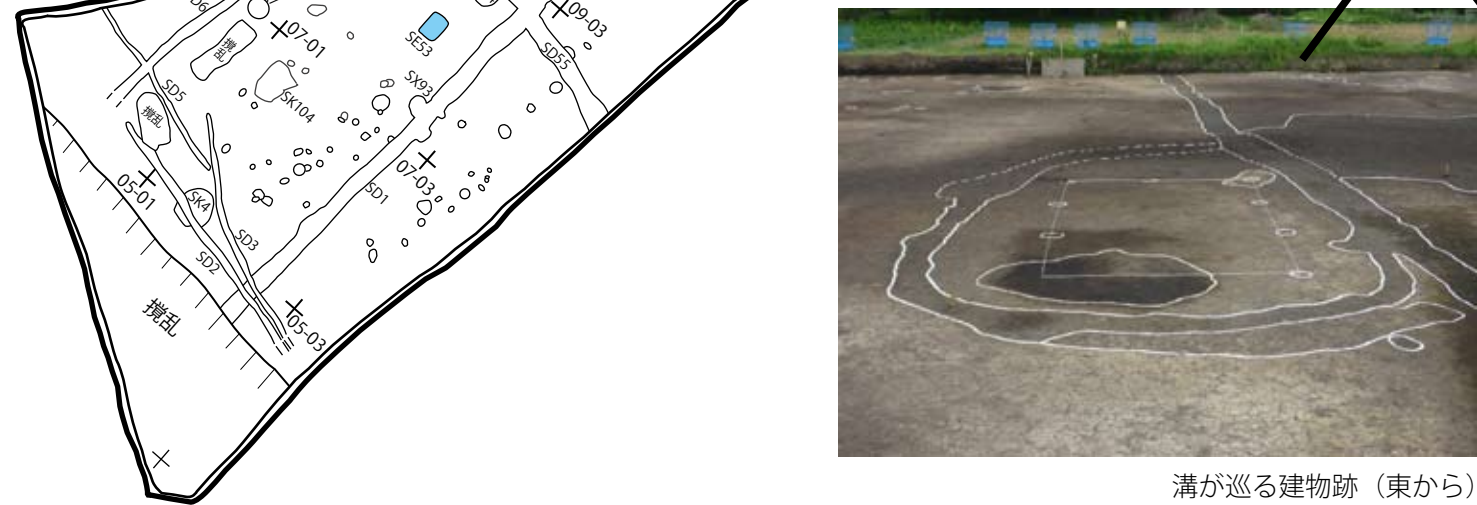
底をもつ建物跡（南東から）



石を入れて埋めた井戸跡（北から）



土器の出土状況（北から）



溝が巡る建物跡（東から）



2間×3間の建物跡（東から）

